

中部ニユース

シネスコ版

原稿) = 2-スノ064
原稿) = 2-スノ193
中H = 2-スノ206

No. 530

39. 3. 13

一、心頭を滅却して

——高尾山

○東京八王子の高尾山薬王院で「火渡り祭」の行事が行なわれました。千二百年の伝統をもつ山開きの荒行で、火の中を渡ればこの一年無病息災、商売繁盛といわれます。そして山伏を先頭に次から次へと赤い炎が残る火の上を「心頭を滅却」して渡って行きます。しかしこの荒行におしかけた千五百の見物人は思わず自分の足をすくめていました。

一、密航ネズミ御用

東京湾べりの倉庫街。

イカツイ制服姿でおでんの「イカボール」と取組んでいるのは厚生省のお役人さんです。これは、世界を股にかける厄介者、ネズミを非常警戒網にかけるためのネズミ捕り器の仕掛け。ネズミは怖ろしい菌を持ち、これを媒介するノミを発生させるといよいよな代物なのです。

なかでも、海外から密航してくる招かざる客は一番怖ろしいのです。これを防止する為に係官は湾べりの倉庫をくまなく物色してのネズミ退治となるのです。毎月十日間は捕り器を抱えて歩きまわります。今日もネズミ町の銀座通りを捜しまわります。一夜明けて、昨夜の作戦の効果は如何に……。見事密航ネズミは御用となりました。ペストの国内侵入を防止するには、これ程の苦労があるのです。

アイモ風土記

一、山に生きる町

——秋田県・田沢湖

秋田県田沢湖ここは古くから広葉、針葉樹林を育てあげ、我が国でも三大美林の一つとして知られて来ました。裏日本一帯を襲うシベリア、モンソンは、この山々に美しい樹林を繁殖させる反面、農業には適さない地理条件にも置かれているのです。

この為冬將軍の訪れとともに人々は、山仕事に大きな生活の場を求めているのです。そこには恐ろしい自然のきびしさと常に身に迫る危険とが、彼らをとりまいています。即ち一步身をあやまれば死を伴う伐採作業。

二本のロープでしばり、ソリの頭を先端にトビロ一丁を使って雪山をすべり降りる危険な作業。連日こうした危険な作業と斗う彼らは、単作農業というこの地方特有の自然環境が、生活の場を山林労働に指向したが、近年ここにも時代の変化は合理化を生み雪どけを待つて、「山子」もやがて新しい試練に立たされているのです。

6400

007

167

106